

演題 32. 平成 19 年度病理検査研究班
精度管理報告

○三橋涼子(千葉市立青葉病院) 中山茂(千葉県こども病院) 青柳正則(千葉社会保険病院) 東和彦(千葉大学千葉大学院医学研究院腫瘍病理学) 五十嵐信之(社会保険船橋中央病院) 大木昌二(千葉大学医学部附属病院病理部) 小野寺清隆(帝京大学ちば総合医療センター) 仙波利寿(東京医科歯科大学千葉病院) 中村和昭(㈱江東微生物研究所千葉支所) 西野武夫(千葉市立海浜病院) 福田憲一(千葉市立海浜病院) 井浦宏(千葉市立青葉病院)

【はじめに】病理検査研究班では、染色の良否が問題ではなく適正処理を身に付けることを目標に精度管理事業を実施している。

【材料・方法】材料として、15%緩衝ホルマリン固定された剖検例の肝臓を配布し、各施設で通常の方法で包埋・薄切・染色を実施することとした。染色の種類は、一般染色であるヘマトキシリン・エオジン染色及び特殊染色として、膠原線維染色、PAS 染色、細網線維染色を行うこととした。但し、特殊染色においては、自施設で行えるものとした。また、アンケート調査を行い、使用試薬、染色方法、採用試薬などについての情報を収集した。

【評価方法】評価は病理検査研修会にて参加者全員で行うこととしているが、予備集計が必要なため、各染色の作成標本を委員数名で鏡検し、評価点を算出している。また、各染色の総合評価として算出した評価点を基に、ABC の 3 段階評価を行っている。但し、特殊染色においては目的物質の染色性の採点が不良な場合は、他の項目の採点にかかわらず C 評価としている。以上、評価結果、実際の染色態度等に考察を加えて報告する。